

第2回地域キャリア教育支援協議会

第2回地域キャリア教育支援協議会 タイムライン

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 15時00分～15時10分 | 前回の振り返りと、本日のゴールの確認 |
| 15時10分～16時10分 | 各グループに分かれて議論 |
| 16時10分～16時30分 | グループ別検討結果の共有と質疑、検討 |
| 16時30分～17時00分 | 第2回協議会での議論のまとめ |
| 17時00分～17時15分 | 今後のスケジュール（特に視察と、次回の懇親会について） |

支援協議会設置の目的

1. 横浜の子どもたちの豊かな学びや、より質の高い「自分づくり教育」を実現していくため

- 「横浜市キャリア教育推進プログラム」の作成、配布による企業への啓発活動強化
⇒学校と企業との協働が進みやすいモデル事例、協働ステップ、等の情報発信

2. 学校の「協力してほしい」、企業の「協力したい」のミスマッチを減らしていくため

- 「キャリア教育に関わる教育活動へ協力いただける企業一覧」のブラッシュアップ、数の充実化
⇒学校への情報提供充実により、学校負担の軽減へ

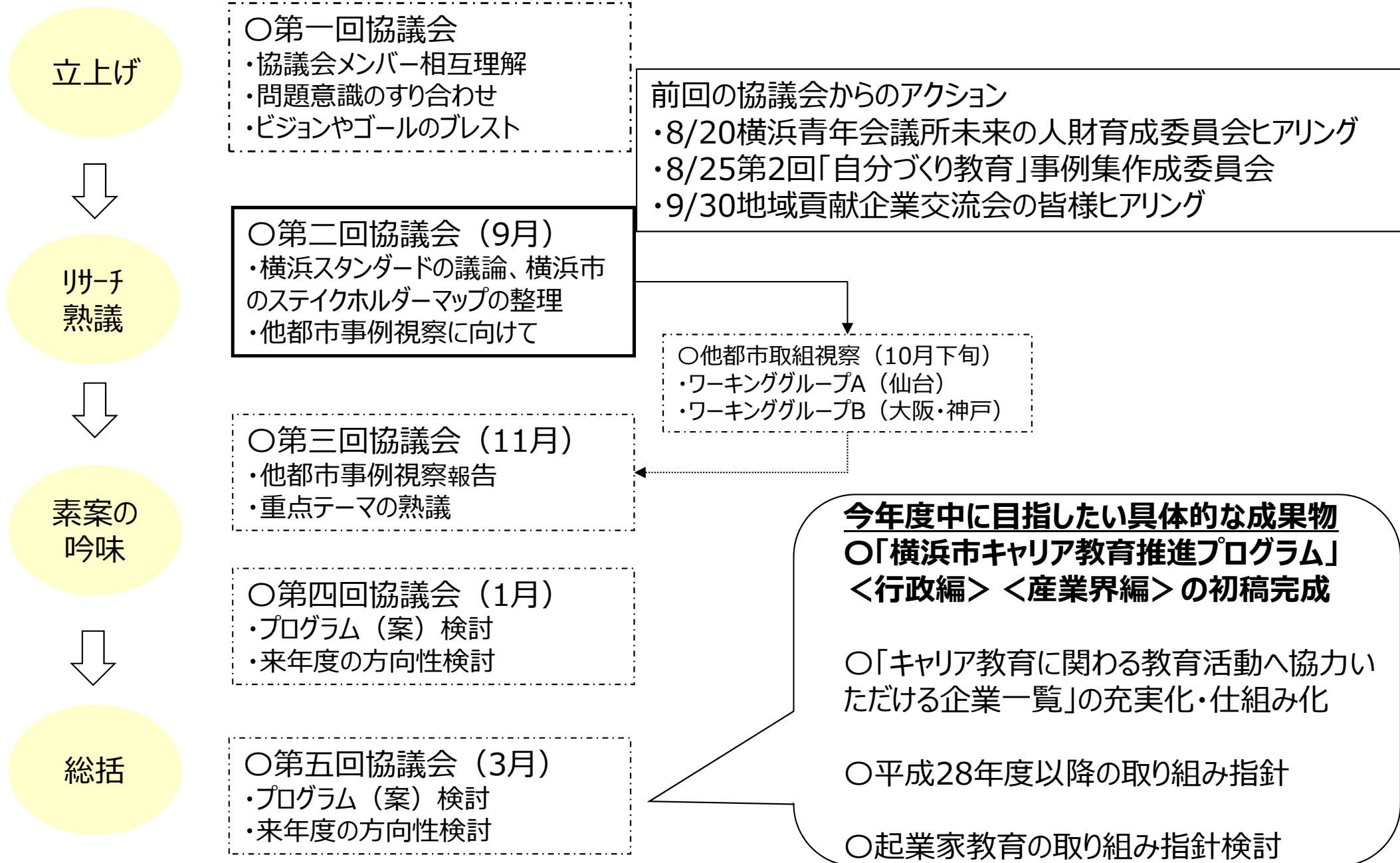
3. 未来にわたって継続していける、横浜らしい産・学連携の仕組みを構築していくため

- 学校・地域コーディネーターや、教育委員会、産業界等が、うまく情報共有 & 機能し合えるインフラの検討

上記目的達成のために、議事運営の上でのグランドルール

肩書や役職を（なるべく）外して、率直に意見を言い合う場作りを！

今回の協議会の大まかなスケジュール（案）



前回の議論からのまとめ①

⇒学校、企業、地域社会の**自発性**をいかに引き出していけるか。
地域の中で、持続していく仕組みや体制を考える必要がある。

横浜の学校は・・・

エリア特性も様々であることから各学校の独立性が高く、見解やルールを浸透させにくい。

どのように方針やモデル事例を発信していくと、学校の**自発的**な取り組みを引き出せるか。

横浜の企業は・・・

企業数が非常に多く規模も様々。また現状キャリア教育に協力している業界に偏りがある。

どのような仕組みや働きかけがあると、企業の**自発的**な参画協力を引き出せるか。

横浜の地域社会は・・・

教育や子どもの成長に関心のある市民が多い。ボランティアな活動が数多く行われている。

どのような仕組みや体制作りを行うと、住民の**自発的**な教育支援の動きが根付くか。

前回の議論からのまとめ②

⇒横浜のキャリア教育で大事にしたいのは、以下のような原則（たたき台）

■ 横浜のキャリア教育は心が動き最終的に「自分づくり」につながるものであってほしい。

- ・行事やイベントのように終わってしまうのは残念。キャリア教育＝職業教育でもない。
- ・単なるお客様や受け身で終わるのではなく、自分とつなぎ合わせて考えさせたい。

■ 横浜のキャリア教育は、みんなで創り上げるものであってほしい

- ・送り出す側、保護者、企業、「みんなで子どもたちを育てる意識」を地域に根付かせたい。

■ 横浜のキャリア教育は、子どもたちの世界を広げるものであってほしい

- ・子どもたちの想像の及ばないところにも仕事がある、ということを知ってほしい。

※現状、子どもたちに職場体験受入先を聞いて、希望に応じて企業開拓を行っている学校も多い。

- ・どんな状況に直面しても対応できる力や、逃げない姿勢、生きる意欲を身につけてほしい。

前回からの事務局の動きからのフィードバック事項

■ 横浜青年会議所未来の人財育成委員会ヒアリング（8月20日）

「新卒採用選考時の若者を見ていると、物事に向き合えず、うまくいかないことから目を背けたり、逃げたりする学生が多くなっている。」

「キャリア教育も誰か他人の背中ではなく、地域の知ってる大人や身近な人が働いている背中を見せると、普段とのギャップもあるので、インパクトが強いのではないか。」

「数日間の職場体験で、ホンモノやプロフェッショナルに触れさせるのはそもそも難しい。」

「キャリア教育に協力している企業、ということステッカー等で表示する等、企業広報につながる形でメリットが見えるとよいのではないか」

「小中学生では、職種や適性等は気にしなくてよし。どんな状況におかれても、粘り強く対応する力や考え抜く心を養ってほしい。」

■ 「自分づくり教育」事例集作成委員会（8月25日）

「アクティブラーニングの手法等を通じて、子どもたちをお客様にせず「主体的に授業の内容に取り組んでいる」状態を目指すことで、学ぶ意欲や自己肯定感につながるのではないか。」

⇒年度末に向けて、各先進校の取り組み事例をまとめ、全学校に配布していく予定。

本日の場～3グループに分かれた集中討議！～

前回の議論を前提に、より具体的 & 集中的な議論を通して、「産業界へのメッセージ」や今後の指針に生かしていく場

テーマ1

企業と学校が考える

キャリア教育で育てたい子どもの姿

- ・各成長段階別（低学年/高学年/中学生/高校生）でどのような子どもたちを育てたいか。
- ・上記をどのように企業や地域とコミュニケーションして理解してもらうか。
- ・校種をつなぐことの効能や企業との接点を持つ際の注意点

メンバー

◎森川さん

奥田さん・金子さん・福田さん

テーマ2

キャリア教育で重要な、中学生の「職場体験」の理想の流れを考える

- ・事前準備、事後学習のあり方
- ・標準的な流れ案
- ・良い職場体験の条件とは？
- ・質の高い職場体験を横浜に増やしていくために学校や企業が留意すべき点や、企業への伝え方のポイントは？

メンバー

◎江森さん

木村さん・村上さん・三宅さん

テーマ3

企業をはじめ、社会全体を巻き込むための具体的な方策、100本。

- ・企業の参加を促すには？
- ・地域コーディネーターや4方面事務所の協力をどう得ていくか。
- ・学校の負担軽減のための仕組み
- ・取組を継続させていくために必要な資金や、組織体制等の検討

メンバー

◎岡部さん

今宮さん・梅澤さん・山本さん

参考：テーマ1のアウトプット例

滋賀県の場合



佐賀県の場合



広島県の場合



これらは、どちらかという、学校向けに書かれたものと思われるが、
産業界や地域社会の協力を取り付けていく意味で、企業にもわかりやすい言葉でイメージを共有できることが大事。

また横浜らしさや、これから10年先20年先を見据えて、
どんな子供たちを育てたいかを反映していくことが重要だと考えられる。